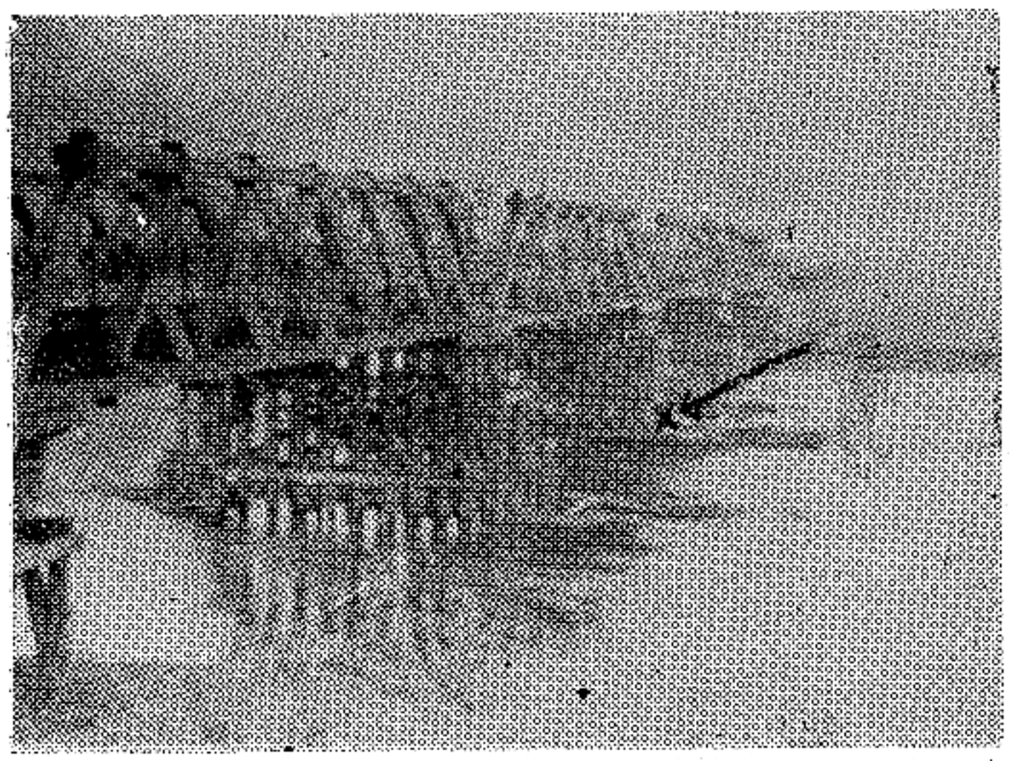

写真第１１図　長期耐水試験片の置いてある
河中の場所

昭和２９年８月末日実施したもので現在の処ははじめと何等変化のない状態を示しており、半永久的に続いて今後も観察してゆく予定です。

場所　当所附近にある石狩川中で橋名は旭西橋

—研究部第二課—

目立養成所通信

(4)

當所研究部製材研究室長北澤技師は12月１日より静岡縣鋸目立養成所に入所幹部教育を受けているが、その通信が届きましたので茲に逐次登載致します

お手紙並びに２５Ｇ帯鋸戴きました。

北海道も選挙戦たけなわで大童の御様子、今日は朝から可成りの降雨で西日本は２００粍以上の豪雨とか北海道で今時こんな雨が降れば、昨年の風倒木の関係も手伝ってたちまち大洪水になるのではないかと心配になります。

鋸の方は只今２３Ｇと２４Ｇと二枚を交互に使用して実習を行っております。樹種は主として杉ですが、○或は梅時に樺、ナラ等も挽くことがあります。

近くの会社からアツサブの２６Ｇばかり十本も加工委託して来たのがあり、生徒が夫々一本宛受持ち試験挽きをしましたが、スギの尺丸程度で六尺もの八—十秒程度までは通りますが、モミ、ツガ等になりますと可成り苦しくなり少し早目に送ると「オヨギ」ます。当地で薄鋸（２２Ｇ以下）の実用化されたのも北海道と殆んど同時期の２３年前からだそうですが、現在のところスギ材で普通の能率を上げるにはせいぜい２２Ｇ程度、但しテーブルで２４Ｇ位と言う話です。中には２７Ｇを作って実験している者もありますが、今のところでは単なる興味程度で実用としては自動２１～２２Ｇ、テーブル２３～２５Ｇ止りではないでしょうか。小生の作りました２４Ｇで本日もやって見ましたが、スギ材ですが６尺で３・５秒～４秒、アサリ３～３・５厘、ピッチ１吋で約１時間半使用し一応曲りもせず通るようでした。

アッサブと国産品とでは別に詳しい比較も致しませんが、歯持ち、腰の狂い、バック等の点でアッサブの方が可成り優れているように感ぜられます。

先日も申し上げましたように初めの仕上げには大分苦労を要しますが、一度仕上げてしまうと後は非常に楽で、スギばかり挽いている工場では半年位も腰を直さずに使用しているという話も聞きました。

新鋸で実習を始めるようになってから小生だけで切断２本、外し１本と既に三回送材車にひっかけましたお互初心者ばかりの集りのため、歩出し、ハンドル等の呼吸がうまく合わず大部分がハッカにぶつけるわけですが、小生の一度の場合など本機の覆いの天井と側板をつき破り思わず持ったハンドルを離して飛び下るところでした。熟練すれば左程でもないのでしょうがハンドルも成るべく軽く握りスムーズに送ろうとすればする程何時の間にか力が入り、全神経を集中して少しも油断せずにやっているため二時間もやっていると気分的におかしくなる事さえあります。こんな調子では到底ハンドルマン等には不合格だろうと自負しています。

当所の予定期限も正味あと一ケ月少々となりました

尚終了後の事に付きましては、丸鋸の件の次長よりの御希望もあり幸いこの機会に一通りだけでも習得出来ればと考えました次第、その他も別に定めたるところもありません故適宜御選択の上御決定下されば幸甚です。唯東京の丸源、笹野木材、試験場だけは御都合して戴きたく存じます。

此の間全員で野田合板、富士製作所の見学に参りました。野田合板は流石東洋一とかの近代設備で流れ作業型式、使用機械等も仲々立派なものでした。来週火曜日は日本楽器、丸天製材、天竜製鋸、天竜木材等、水曜日は田中機械の見学が予定されており、当地に居る間に静岡県下の代表的工場は一通り廻れるようです

五月に入りますと又公開試験挽、見学等で大分日数もつぶれますので、今の内大いに馬力をかけて少しでも多く習得したいものと思っております。

月曜日からは早速２５Ｇにかゝります。その後２２Ｇを作り更に余裕がありましたら２６Ｇを借りて仕上げて見ようと考えております。

製材研究室のメンバーが少し変りました由、皆様にもよろしくお伝えの程お願い申し上げます。　敬具

４月１６日

〝夏も近づく八十八夜……〟こんな歌を幼い頃よく唄ったのを覚えていますが、その八十八夜が又今年もやって参りました。旭川辺りでは余り感じられない八十八夜頃の若葉の繁り、或は茶摘み風景が当地に参り初めて成程なあと唄の文句と状景とを思い較べ独り感がいにふけております。

修業期限の六ケ月もいよいよ最後の月となってしまいました。次長初め皆様に力付けられ、まるで昔の出征か生れて初めての旅行かのような何か悲壮感すら感じさせる思いで旭川を発った昨年暮から早や半年近く経ち、鋸の扱い方から接合、水平仕上げ、腰入れ、アサリ出し、更に製材機の扱い方等盛り沢山の課目も一通り練習、後は今までの教務復習と熟達をまつ段階までどうやらこうやら落伍せずにやって参りました。一人前などと言うところまでは未だまだ及びもつきませんが、腰の入れ方、アサリの出し方等一応の方法を習ったと言うだけでも短期間ではありましたが、小生にとっては非常な収穫だったと存じます。これも次長、部長、課長はじめ皆様方の一方ならぬ御厚意とお力添えの賜と深く感謝致して居る次第です。

先日お送り願いました２５Ｇも試作して見ました。杉の尺以下のものでしたら実用にも差支えなさそうですが、モミ、ツガ等いくらか繊維の強いものになりますと矢張り少々無理があるのではないかと感じました長さ六尺で十～十五秒程度ですと余り「オヨガズ」通りますが、それ以上早くとなると若干苦しいようです先日浜松、天竜の日本楽器、丸天、角天の両製材工場を見学した際も２３～２４Ｇまでは大丈夫だが、２５Ｇ以上となると相当念入りに作っても固い針葉樹は難しい……由でした。

従って我々如きほんの入門程度の腕で２５～２７Ｇなどと言う薄鋸をマスターすること自体一寸生意気すぎるのかも知れませんが……

２５Ｇ以上のもので最も難しく感ずるのはこの前申し上げた「水平仕上げ」と「アサリ出し」です、そして最後の研磨が完全にさえいけば宜しいわけでしょうが、どうもそう簡単に思うようには参らぬようです。こちらでも現在僅かの機械、器具を大勢で使用するため調節もその度毎に行わねばならずそんなところにも欠点はあろうかと考えられない事もありませんが、帰ってから又一つゆっくり考えながら改めて検討してみることにします。

早く帰ってこちらの状況など御報告申し上げたくもあり、またこの際成るべくいろいろなことを勉強して帰りたくもあり何か名状し難い気持です。

限りなき技術のため最後の月を頑張ります。

御自愛専一に　　敬　具

4月29日

目立養成所通信（4）
当所研究部製材研究室長北澤技師は 12 月 1 日より静岡県鋸目立養成所に入所
幹部教育を受けているが、その通信が届きましたので茲に逐次登載致します

お手紙並びに 25G 帯鋸戴きました。

北海道も選挙戦たけなわで大童の御様子、今日は朝から可也の降雨で西日本は 200mm 以上の豪雨とか北海道で今時こんな雨が降れば、昨年の風倒木の関係も手伝ってたちまち大洪水になるのではないかと心配になります。

鋸の方は只今 23G と 24G の二枚を交互に使用して実習を行っております。樹種は主として杉ですが、○或は梅時に樺、ナラ等も挽くことがあります。

近く会社からアツサブの 26G ばかり十本も加工委託して来たのがあり、生徒が夫々一本宛持ち試験挽きをしましたが、杉の尺丸程度で六尺もの八－十秒程度までは通りますが、モミ、ツガ等になりますと可也苦しくなり少し早目に送ると「オヨギ」ます。当地で薄鋸（22G 以下）の実用化されたのも北海道と殆ど同時期の 23 年前からだそうですが、現在のところスギ材で普通の能率を上げるにはせいぜい 22G 程度、但しテーブルで 24G 位と言う話です。中には 27G を作って実験している者もありますが、今のところでは単なる興味程度で実用としては自動 21～22G、テーブル 23～25G 止りではないでしょうか。小生の作りました 24G で本日もやって見ましたが、スギ材ですが 6 尺で 3.5 秒～4 秒、アサリ 3～3.5 厘、ピッチ 1 インチで約 1 時間半使用し一応曲りもせず通るようでした。

アッサブと国産品とでは別に詳しい比較も致しませんが、歯持ち、腰の狂い、バック等の点でアッサブの方が可也優れているように感ぜられます。

先日も申し上げましたように初めの仕上げには大分苦労を要しますが、一度仕上てしまうと後は非常に楽で、スギばかり挽いている工場では半年位も腰を直さずに使用しているという話も聞きました。

新鋸で実習を始めるようになってから小生だけで切断 2 本、外し 1 本と既に三回送材車にひっかけました。お互い初心者ばかりの集まりのため、歩出し、ハンドル等の呼吸がうまく合わず大部分がハッカにぶつけるわけですが、小生の一度の場合など本機の覆いの天井と側板をつき破り思わず持ったハンドルを離して飛び下がるところでした。熟練すれば左程でもないのでしょうがハンドルも成るべく軽く握りスムーズに送ろうとすればする程何時の間にか力が入り、全神経を集中して少しも油断せずにやっているため二時間もやっていると気分的におかしくなる事さえあります。こんな調子では到底ハンドルマン等には不合格だろうと自負しています。

当所の予定期限も正味あと一ヶ月少々となりました。

尚終了後の事に付きましては、丸鋸の件の次長よりのご希望もあり幸いこの機会に一通りだけでも習得出来ればと考えました次第、その他も別に定めたるところもありません故適宜御選訳の上御決定下されば幸甚です。唯東京の丸源、笹野木材、試験場だけは御都合して戴きたく存じます。

この間全員で野田合板、富士製作所の見学に参りました。野田合板は流石東洋一とかの近代設備で流れ作業型式、使用機械等も中々立派なものでした。来週火曜日は日本楽器、丸天製材、天竜製鋸、天竜木材等、水曜日は田中機械の見学が予定されており、当地に居る間に静岡県下の代表的工場は一通り廻れるようです。

五月に入りますと又公開試験挽、見学等で大分日数もつぶれますので、今の内大いに馬力をかけて少しでも多く習得したいものと思っております。

月曜からは早速 25G にかかります。その後 22G を作り更に余裕がありましたら 26G を借りて仕上げて見ようと考えております。

製材研究室のメンバーが少し変りました由、皆様にもよろしくお伝えの程お願い申し上げます。　　敬具

4 月 16 日

“夏も近づく八十八夜……”こんな歌を幼い頃よく唄ったのを覚えていますが、その八十八夜が又今年もやって参りました。旭川辺りでは余り感じられない八十八夜頃の若葉の繁り、或は茶摘み風景が当地に参り初めて成る程なあと唄の文句と状景とを思い比べ一人感がいにふけております。

修業期間の六ヶ月もいよいよ最後の月となってしまいました。次長初め皆様に力付けられ、まるで昔の出征か生れて初めての旅行かのような何か悲壮感すら感じさせる思いで旭川を立った昨年暮から早半年近く経ち、鋸の使い方から接合、水平仕上げ、腰入れ、アサリ出し、更に製材機の扱い方等盛り沢山の課目も一通り練習、後は今までの教務復習と熟達をまつ段階までどうやらこうやら落伍せずにやって参りました。一人前などと言うところまでは未だまだ及びもつきませんが、腰の入れ方、アサリの出し方等一応の方法を習ったと言うだけでも短期間ではありましたが、小生にとっては非常に収穫だったと存じます。これも次長、部長、課長はじめ皆様方の一方ならぬ御好意とお力添えの賜と深く感謝致して居る次第です。

先日お送り願いました 25G も試作して見ました。杉の尺以下のものでしたら実用にも差支えなさそうですが、モミ、ツガ等いくらか繊維の強いものになりますと矢張り少々無理があるのではないかと感じました。長さ六尺で十～十五秒程度ですと余り「オヨガズ」通りますが、それ以上早くなると若干苦しいようです。先日浜松、天竜の日本楽器、丸天、角天の両製材工場を見学した際も 23～24G までは大丈夫だが、25G 以上になると相当念入りに作っても固い針葉樹は難しい……由でした

従って我々如きほんの入門程度の腕で 25～27G などと言う薄鋸をマスターすること自体一寸生意気すぎるかも知れませんが……

25G 以上のもので最も難しく感ずるのはこの前申し上げた「水平仕上げ」と「アサリ出し」です、そして最後の研磨が完全にさえいけば宜しいわけでしょうが、どうもそう簡単に思うようには参らないようです。こちらでも現在僅かの機械、器具を大勢で使用するため調節もその度毎に行わねばならずそんなところにも欠点はあろうかと考えられない事もありませんが、帰ってから又一つゆっくり考えながら改めて検討してみる事にします。

早く帰ってこちらの状況など御報告申し上げたくもあり、またこの際成るべくいろいろなことを勉強して帰りたくもあり何か名伏し難い気持ちです。

限りなき技術のため最後の月を頑張ります。

御自愛専一に　　敬具

4 月 29 日